2023年度 日本工学院専門学校											
建築学科											
ものづくり実習 1											
対象	1年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	山田 盛久 他			実務 経験	有	職種	建築設計／一級建築士				
担当教員紹介											
<p>大学院の意匠・歴史研究室にて西洋建築史研究と横浜・鎌倉の歴史的建造物の実測調査・保存活動に携わる。その後、一級建築士事務所を設立し住宅設計・監理を経験。本校の非常勤講師を経て常勤教員として設計教育に従事。</p>											
授業概要											
<p>建築製図1（5週）・基礎デザイン（5週）・ものづくり実習1（5週）をクラスごとのローテーションで実施。自らの手で1本の線を描くところから、すべての造形活動、創作活動がスタートすることを学ぶ。各課題の体験の積み重ねにより、造形分野で必要となる図画力、形態操作に対する観察力と考察力等のものづくりの基盤を養う。</p>											
到達目標											
<p>ものづくり実習1では、建築製図1、基礎デザイン科目と連動し、「手を動かす」ことに重点を置いた創作活動を行う。あかりのデザイン（ランプシェード）に取り組み、あかりのある空間と人との関係を考え、創意工夫したオリジナリティ溢れる作品を制作することを目標とする。①あかりのデザインの基本的な知識や技能を習得し、計画性を持って制作できる力を身に付けることができる。②様々なあかりのデザイン作品を鑑賞し、イメージを膨らませながら、自らのデザインによるアイデアのスケッチができる。③作品発表において作品についてのコンセプトを伝え、他者との意見交換ができる。</p>											
授業方法											
<p>視覚から得られる情報は、人間の持つ感覚の中で9割程度を占めている。視覚から得られる情報から、人は、喜び、悲しみ、感動等の様々な感情を覚える。ものづくり実習1では、その視覚を喚起する対象として「あかりのデザイン（ランプシェード）」の制作に取り組む。オリジナリティのある様々なあかりを創造してほしい。また、担当講師による授業講義において、光の形態操作、デザインへの応用、産業技術等、ひかりにまつわる歴史及び技術について学ぶ。</p>											
成績評価方法											
<p>提出物、授業態度、平常点、などを総合的に判断する。</p>											
履修上の注意											
<p>授業時間中の指導、講義、作業に加え、授業外の時間での思考、検討、作業等、個々の到達目標に合わせて効果的に取り組むこと。各回、必要な道具等が異なるので、忘れ物のないように事前準備の確認を怠らないこと。</p>											
教科書教材											
<p>毎回資料を配布する。参考書・参考資料等は授業中に指示する。</p>											
回数	授業計画										
第1回	<p>①ガイダンス（授業内容の概要、成績評価の方法等を説明する） ②あかりのデザインの紹介（担当講師レクチャー） 【課題1】「私が好きなあかり」というテーマで各自があかりのデザインについて調べる 写真データ提出 次回授業で発表</p>										
第2回	<p>【課題1】「私が好きなあかり」クラス内発表及び講評会開催 【課題2】「あかりのデザイン（ランプシェード）」のデザインを考える あかりのデザインのスタディ（スタディチェック随時 担当講師）</p>										
第3回	<p>【課題2】「あかりのデザイン（ランプシェード）」のデザインを考える あかりのデザインの制作（制作指導随時 担当講師）</p>										
第4回	<p>【課題2】「あかりのデザイン（ランプシェード）」のデザインを考える あかりのデザインの制作（制作指導随時 担当講師）</p>										
第5回	<p>【課題2】「あかりのデザイン（ランプシェード）」のデザインを考える 作品発表会、講評会（担当講師）</p>										

2023年度 日本工学院専門学校	
建築学科	
ものづくり実習 1	
第6回	(建築製図 1 ①)
第7回	(建築製図 1 ②)
第8回	(建築製図 1 ③)
第9回	(建築製図 1 ④)
第10回	(建築製図 1 ⑤)
第11回	(基礎デザイン①)
第12回	(基礎デザイン②)
第13回	(基礎デザイン③)
第14回	(基礎デザイン④)
第15回	(基礎デザイン⑤)